

【令和5年度 授業改善推進プラン】

板橋区立北野小学校

【国語】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読書や読み聞かせを好む児童が多い。 ・語彙が乏しく、少なく、自分の思いや考えを的確に表現できない児童が多い。 ・漢字学習では、止め・はね・はらいなど細部まで確認することが苦手で、字形がとれない児童がいる。また、学習した漢字が身に付かず、文章表現に生かせていない傾向がある。 ・順序立てて文を書くことができなかつたり、文の組み立てや構成ができなかつたりする児童も見られる。 ・文章の内容を正確に読み取る力には個人差がある。 ・今年度行った「全国学力・学習状況調査」では、全国や東京都の平均を全体的に上回っている。しかし、自分の考えを文章で表す問題では、無回答が多く、正答率もかなり低い結果となった。。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の習得状況に個人差が大きく、漢字の習得に向けての反復学習の時間が不足している。 ・言葉のきまり(主語・述語、名詞・動詞等)などの基礎基本を繰り返し指導する時間が少ない。 ・個に応じた課題に対する指導が十分にできていない。 ・文章を書いたり読み取ったりすることへの苦手意識をもつ児童への理解度や意欲を高めるための指導。 ・国語科の授業を中心に、他教科との連携を図り、色々な場面で自分の思いや考えを的確に伝える力を育てることが課題である。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章で自分の考えを答える問題を授業でも扱うようにし、記述式になれるような活動を定期的に取り入れるようにする。 ・話しの聞き方、教科書の「いつも気をつけよう」に取り上げている基礎的・基本的な内容を常に意識させる。 ・文字を丁寧に書かせる習慣を日常生活のなかで指導する。習った漢字を使わせるよう日々指導する。 ・ペアやトリオなど、少人数グループで安心して話したり、聞いたりする場面を意図的に設ける。(協同学習) ・国語辞典や漢字辞典を日常的に使うことを習慣化し語彙力を高める。 ・ICTを活用しデジタル教材やタブレットを多く取り入れた、授業を考えていく。 ・書いた文章をお互いに読み合い、感想を交流する機会を設ける。(協同学習) ・学習した内容をもとに学んだことをノートにまとめたり、既習事項の振り返りとしてノートを活用したりする。(ノート指導) ・文章から読み取った内容の根拠となる叙述を意識させる。(問題解決型・探究型の学習) ・言葉のきまりについては、プリント等で児童がどこでつまづいているかを把握し、学習内容を振り返りながら系統的な指導をする。(指導と評価と支援の一体化) ・小学校で日常生活が中心であった学習が中学校では社会生活まで対象が広がっていくので、子どもたちの見方や考え方を段階的に広げ、内容面だけでなく、表現の工夫についての考えを発達段階に応じてもたせるようにする。 ・カリキュラムマネジメントを行いながら、読み解く力について国語科を中心に他教科でも行う必要がある。